

あなたの好きなことがみんなの幸せにつながるかも？ ～「スキ」から始まる京都のまちづくり～



市民協働ファシリテーター養成研修 市民協働チーム

開催概要

「あなたの好きなことがみんなの幸せにつながるかも？」

～『スキ』から始まる京都のまちづくり～

- 開催日時：2021年11月24日（水）13:30～15:30
- 開催場所：オンライン会議システム「ZOOM」
- 参加者：12名
 - 一般参加（市民・民間企業ゲスト）：6名
 - 京都市職員（市民協働ファシリテーター研修受講生）：6名



ワークショップのねらい



開催背景

- 京都市ではこれまで、市民が自分ごととして市政参加・まちづくりを行うよう取組を進めてきたが、市政に興味がない人や時間がない人はまだまだ市民参加ができていない状況である。（第3期京都市市民参加推進計画では、市民参加＝市政参加＋まちづくりと定義）
- そのため、より一層の市民参加の裾野拡大を図りたい。

問いの転換

- **現状の目標：市民参加の裾野拡大**
 - 市民参加は、あくまで「みんなが幸せになる」ための手段にすぎず、目的ではない。『どうすれば市民参加が広がるのか』ではなく『どうすれば「みんなの幸せ」が生まれるか』を考える必要がある。
- **目標の再定義：「各々の好きなことがみんなの幸せにつながること」への気づきの拡大**
 - 各々の好きなことが、自然に周りの人に良い変化をもたらし、みんなの幸せにつながる。
 - 良い変化が連鎖的に広がっている状態とは、結果的に市民参加の輪が広がっている状態である。

本ワークショップにおける問いとゴール

- **各々の好きなことがみんなの幸せにどのようにつながっていくか？**
 - 忙しくても、誰かと一緒に好きなことをするために必要な場所や機会のアイデア
 - 「好きなことが外部の人にどのような良い変化をもたらすか」についての気づき

ワークショップのプロセス



1. 問いの共有等

- ファシリテーターから、ZOOMの機能、ワークショップのルール、流れの説明
- テーマ所管課から思いの共有
- チェックイン（グループに分かれて自己紹介）

2. 2人組での対話（ストーリーテリング）

- 「あなたにとって、趣味のような好きなことは何ですか？また、どういうところが好きかも教えてください！」というテーマで、2人組で対話

3. グループでの対話（ワールドカフェ）

- 「忙しくても、自分のペースで、誰かと一緒に好きなことをやっていくには、どんな場所や機会があるといいでしょうか？」というテーマで、途中でメンバーを入れ替えながら、小グループで対話

4. グループでのアイデア出し（ブレインストーミングとドット投票）

- 「〇〇が好きで集まったグループがあります。そのグループの活動によって、グループに所属していない人の生活に良い変化をもたらされるとすれば、どんな変化？」というテーマで、グループでアイデアを出し、優先順位を決定

5. アウトプット作成（クイックプロトタイピング）

- 共通の好きなことで集まった市民のグループが、それぞれにできることを実現することで京都市で助け合いが行われているストーリーを雑誌形式で作成

6. 発表

- 各チームのアウトプットの発表



アウトプットサマリー：

好きなことがみんなの幸せにどのようにつながっていくか？

忙しくても、自分のペースで、誰かと一緒に好きなことをやっていくには、どんな場所や機会があればよいか？

場所のアイデア

- オンライン（Slack, チャットなど）
- リラックスできる場所
- ふらっと活動できる、誰でも参加できる場所
- 一つのことだけでなく、仕事や読書、コーヒーを飲む等いろいろなことができるフリースペース
- 周りの目を気にせず話すことができる場所
- 一緒に来た家族も楽しめるような場所
- 休日もあいているコワーキングスペース
- 京都ならではのお寺のオープンスペース

機会（時間や人）のアイデア

- 仲がよい人
- 同じ目標を持った人
- 上下関係がない（仕事外）
- お互いを認めあう、居心地の良い空気感や人
- 好みが似ていそうだったり、気が合いそうな人同士をマッチングしてくれる人

好きなことで集まったグループの活動によって、外部の人にもたらされる良い変化

- **更なるつながりが生まれ、コミュニケーションの輪が広がる**
- **コミュニケーションの輪が広がることで、グループ外の人への困りごとや課題の解決につながる**
- おすすめの情報や便利情報、グループ内に存在する良い文化などを外部に発信
- 集まったグループで社会活動を実際に行う

アウトプットサマリー：共通の好きなことで集まった市民のグループが、それぞれにできることを実現することで京都市で助け合いが行われているストーリー

1. 好きなこと：お菓子作り

Aさんは、**父親**が食物アレルギーを持っていることから、他にも同じようにアレルギーの悩みを抱えている人がいるのでは？と思い立ち、入っていた**サークル**で食物アレルギー対応のお菓子を開発した。**サークル内に、毎年の区民祭りに参加しているメンバーがいた**ため、祭りで開発したお菓子を販売したところ、**同じ祭りで出店していた農家の方**から、販売できない野菜を使ったお菓子作りを提案され、**地域の食品ロス削減**に貢献した。

2. 好きなこと：登山

Aさんは、小学校の先生をしている**知り合い**から、防災訓練の内容を相談されたことをきっかけに、**登山の知識やスキルで、災害時に役立つものを市民の方に発信する**サバイバル講座を開始した。最初は地域の公園で行っていたが、**それを見た町内会の方に誘われ、お祭りや地蔵盆で出前講座**も行うようになった。

3. 好きなこと：フットサル

Aさんは、フットサルが趣味で「**個サル**」を運営しており、参加者を募集したところ、運動不足に悩むBさんが参加した。フットサルを通して、Bさんは運動不足が解消されると共に、AさんとBさんは、**お互いの家族ぐるみで交流する仲になり、フットサル以外にも一緒にバーベキューなど**をするようになった。

4. 好きなこと：旅行

県外から京都市内の大学に進学した学生が、**旅行サークルの仲間と、地元の方も知らない飲食店や観光スポットなどを紹介するマップ**を作成した。ガイドブックに載っていない魅力的なスポットが載っている、と修学旅行生の中でマップが人気となり、口コミが広がったことで、**サークル外の人がマップ作りに参加するようになった**。スイーツが好きな人や時刻表が好きな人など、**多様な人が集まったため**、あらゆる要素を盛り込んだマップが完成した。



アウトプット詳細①（共通の好きなことで集まった市民のグループが、それぞれにできることを実現することで京都市で助け合いが行われているストーリー）

アレルギーを持っている方にお菓子を！

お菓子が好き

お菓子サークルに入っている、お菓子作りが好きな女の子が、お父さんへのプレゼントにお菓子を作ったが、お父さんがアレルギーを持っていたため、食べる食材に気がつかっていた。同じようにアレルギーをもっている方で、お菓子を食いたい思っている人がいるのではないかと思い立ち、サークル活動の中で、新たな取り組みを提案した。

お父さんの感想と、サークルでの話し合い

女の子が作ったお菓子を食べてお父さんは大感激。

「自分以外にも食物アレルギーの悩みを抱える人はいるから、今後の区民祭りでお店を出してみたら？」と提案する。

お父さんの声をきっかけに、お菓子サークルでも商品化に向けて本格的にお菓子の開発が始まった。お菓子サークルに、地域活動に参加しているメンバーがいて、毎年の区民祭りで出店している方がおり、トントン拍子で、出店が決定！

地域のお祭りで大好評

地域の祭りで食物アレルギー対応のお菓子を販売したところ大好評。

出展していた野菜農家の人から

「うちの販売できないけど、おいしい野菜を使ったお菓子も作ってもらえないか」と声をかけられる。

小さなお菓子作りのサークルから、地域の食品ロスにつながる取組に発展した。

[1班メンバー]

- ・ 岩田
- ・ 中山
- ・ 竹井



アウトプット詳細②（共通の好きなことで集まった市民のグループが、それぞれにできることを実現することで京都市で助け合いが行われているストーリー）

まちなかサバイバル

登山がすき

知り合いの相談から...

- ・小学校での防災訓練→なにか違うとできないかな？

登山で役立つ知識やスキルをみんなに発信！

- ・公園でサバイバル講座（今ここで大地震が起こったら...等の想定で）
 - ◎ちびっこやママパパも参加できる
 - ◎100均のもので、非常時に使えるものを紹介
 - ◎山ごはんの紹介
 - ◎応急手当の仕方の紹介
- ・町内会の自治会や地藏盆
- ・出前講座

[2班メンバー]

- ・児玉
- ・藤井
- ・米澤



アウトプット詳細③（共通の好きなことで集まった市民のグループが、それぞれにできることを実現することで京都市で助け合いが行われているストーリー）

コミュニティ創出と健康増進に繋がりました！

フットサルがすき

個サルがきっかけで...

富樫さんはフットサルが趣味です。富樫さんは個サルを運営しており、参加者を募集したところコロナで運動不足に悩む阿部さんが参加してきました！阿部さんがフットサルを経験したことがなかったのですが、これを機に挑戦してみることにしました！フットサル後、阿部さんの運動不足は解消されるとともに、富樫さんと阿部さんは家族ぐるみで交流する仲になり、フットサル以外にも一緒にバーベキューをすることにも繋がったようです！

こぼればなし

フラットな土地のフットサル場で富樫さんたちがフットサルをしているのを目撃した市職員山川さんは「避難所にも使えそうな土地だ！」と思い、避難所運営にも役立ったみたいです！

[3班メンバー]

- ・ 富樫
- ・ 阿部
- ・ 坂本



アウトプット詳細④（共通の好きなことで集まった市民のグループが、それぞれにできることを実現することで京都市で助け合いが行われているストーリー）

みんなで作ろう！！京都市マップ

旅行がすき

学生やスイーツ好き、時刻表が好きな人たちが集まって、京都市の町を紹介するマップを作る活動が始まった。

京都市に来た修学旅行生と...

京都市の学生と市民が、修学旅行生とつながった。

マップ作り

マップにはラーメン屋を記載したり、スイーツショップを記載したり、バスの時刻表を記載

[4班メンバー]

- ・松永
- ・石川
- ・篠澤



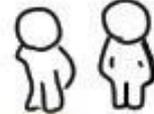
あなたの好きなことが
みんなの幸せにつながるかも？



社会課題の
多様化、
複雑化



空き家



市政に興味なし
興味はあるけど…
時間がない…

今回これを
考える目的

<市民協働推進担当>



～「スキ」から始まる京都のまちづくり～

基本ルール



お互いの話を聞こう
お互い学んで
リラックスして
アイデアを
楽しもう

あなたにとって趣味のような
好きなことは何ですか？
どういうところが好きですか？



手話



フットサル

山登り



読書

テニス



忙しくても、自分のペースで、
誰かと一緒に好きなことを
やっていくには…？

個サルのシステム(個人で
フットサル場に行って、初
対面の人とチームを組む)
が応用できるかも！？

居心地良い空間が必要。
上手い下手を認められると良い

どんな場所が
あると良い？
どんな機会が
あると良い？

同じ趣味の人
同士を繋げる
人がいると良い



自分の行くコミュニティ内に
他の家族メンバーも楽しめる
環境をつくる

家族など、関係者
全員を巻き込む！
フットサル付いてきて
ママ友作るとか。



道場シェアとか。
思い立ったら寄れる
環境が欲しい



〇〇が好きで集まったグループがあります。そのグループの活動によって、グループに所属していない人の生活に良い変化がもたらされるとすれば、それはどんな変化？

お菓子作り



家族や身近な人に食べてもらう

アレルギーある人用のお菓子

廃棄ロス防止に貢献

登山



知らない人への挨拶

健康に良い

サバイバル能力

フットサル



知らない人とのコミュニケーションの場

情報共有

避難マップ

健康増進

旅行



自分のオススを駅に貼る

知らない土地に興味を持つ

交友関係が広がる

共通の好きなことで集まった市民のグループが、それぞれにできることを実現することで京都市で助け合いが行われているストーリーを考えよう！

アレルギーを持って いる方にお菓子を

お菓子作りが好きな女の子

アレルギー持ちの父親向けのお菓子

区民祭りでアレルギー持ちの方向けのお菓子を作る

他の食材を作ったお菓子作りを始める



まちなかサバイバル

小学校での防災訓練
→いつもと違うことができないか

公園でサバイバル講座

登山で役立つスキルを伝達

サバイバルで使える100均グッズ

山ご飯紹介

応急手当講座



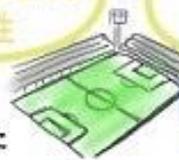
個サルでコミュニティ作り



フラットな土地ならフットサルができる
=防災空地の発掘に

運動不足の社会人を集めたグループから新たなコミュニティが発生

夫のコミュニティをきっかけに家族ぐるみでバーベキューに行く関係に



みんなで作ろう 京都マップ

市内の学生と市民

修学旅行生

京都のまちを紹介するマップを作成

スイーツショップ

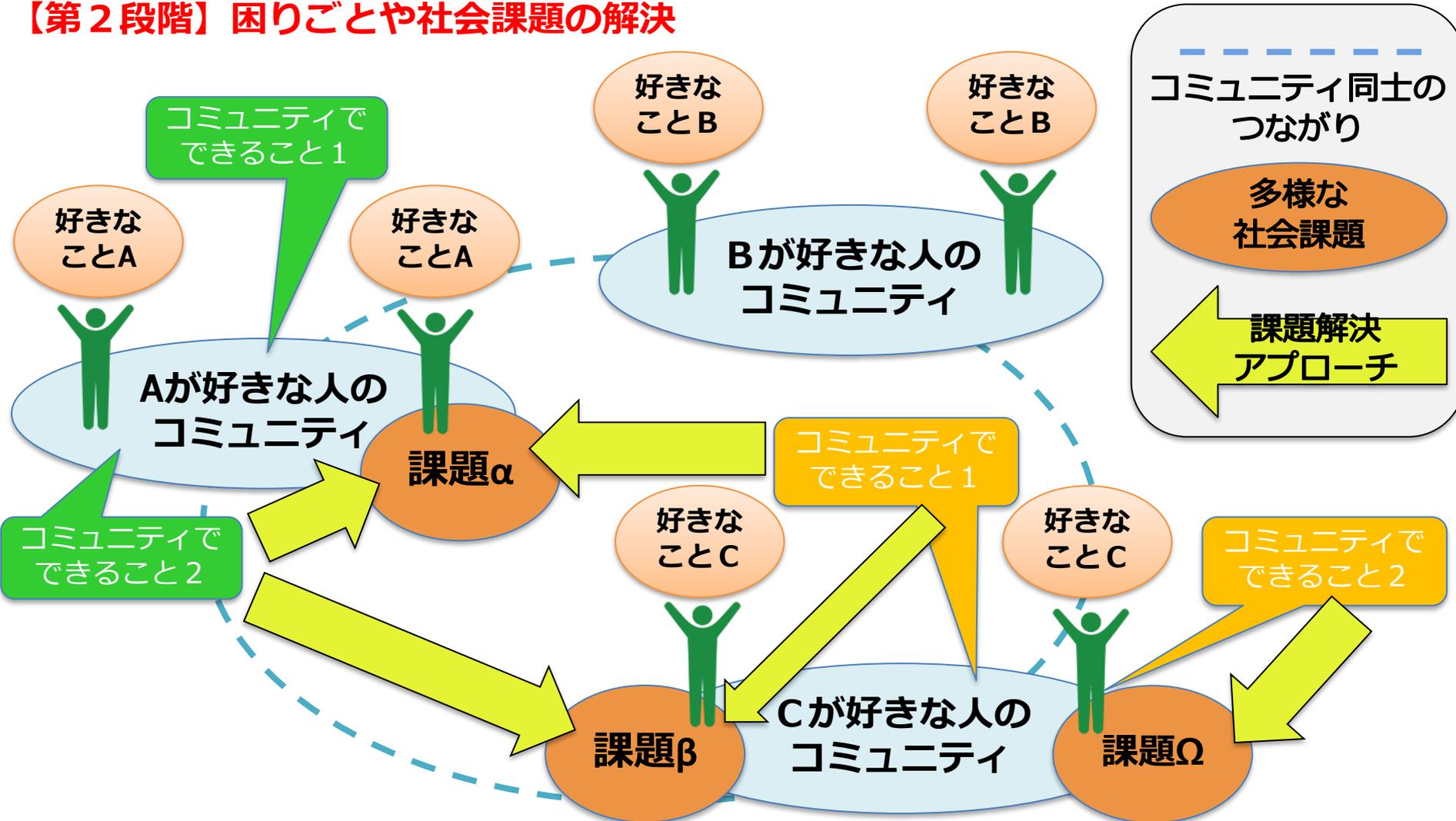
ラーメン屋



アウトプットサマリー：好きなことがみんなの幸せにどのようにつながっていくか？

【第1段階】 つながりの連鎖（次から次へと更なるつながりが生まれる）

【第2段階】 困りごとや社会課題の解決



【ワークショップのアウトプットサマリー】

- ふらっと活動できる, 誰でも参加できる場所
- 同じ目標を持つ人, マッチングしてくれる人

→ 「お互い」あるいは「外部」に「良い変化」をもたらす

= 市民参加が生まれている状態

「良い変化」とは...

- ・ 第1段階：コミュニティのつながりの連鎖
- ・ 第2段階：困りごとや課題の解決

【今後に向けて】

(今までのアプローチ)

- 目標イメージ：市民参加の裾野拡大
- 解決イメージ：どうすれば市民が行政課題の方を向いてくれるのか？

(今後のアプローチ)

- 目標イメージ：市民同士の“自然な”助け合い拡大
- 解決イメージ：どうすれば各々の好きなことを誰かの助けにつなげることができるか？



**(行政の役割) 多様な市民の好きなことと困りごとが集まり、
且つ繋がりが生まれやすい場所・人の創出**

- 〈例〉
- ふらっと好きなときにリラックスして行ける場所の提供
(オンライン・リアル共)
 - そういった場所を提供したり、運営することができる人
 - 好きと困りごとをつなげるノウハウを持った人材の発掘

【具体的な取組案】

- 多様な好きや困りごとをキャッチするためのオンライン上での仕掛けを検討（ハッシュタグの作成、既存SNSとの官民連携）
- 民間のカフェやコワーキングスペースと行政が連携し、多様な好きと困りごとが集まり、且つ繋がりが生まれる仕掛けを検討
- 全庁市職員の好きと困りごとを集約し、まずは市職員同士でのエコシステムを作る（そこで実体験した職員は、好きと困りごとをつなげるノウハウを持った人材にもなる）



ご清聴ありがとうございました

